

令和 8 年度

柏崎刈羽原子力発電所
温排水等漁業調査年度計画
(案)

令和 8 年 3 月

新 潟 県

「原子力発電所温排水等漁業調査基本計画」に基づく令和8年度の計画（案）は以下のとおりである。

I 調査機関

新潟県農林水産部水産課
新潟県水産海洋研究所

II 調査方法

1 調査項目および調査定点

令和8年度の調査項目および調査時期を表1、2に、調査定線および調査定点を図1、2に示した。

表1 令和8年度調査項目および調査時期（物理的環境調査）

| 調査項目 | 調査内容 | 調査定線および定点数 | 調査時期(月) | | | | | | | | | | | | 回/年 | |
|-------|---------|------------------------------------|---------|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|-----|---|
| | | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | | |
| 水温・塩分 | 水平・鉛直分布 | 16定線(0~3m層) および 17定点(0~30m層) | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | | | | ○ | 7 |
| 流況 | 流向 | 118点(5m層) | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | | | | ○ | 7 |
| | 流速 | 1定点(5m層) | | ○ | | | | ○ | | | | | | | ○ | 3 |

表2 令和8年度調査項目および調査時期（生物的環境調査）

| 調査項目 | 調査内容 | 調査定線および定点数 | 調査時期(月) | | | | | | | | | | | | 回/年 | |
|----------|--------------------|------------------------|---------|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|-----|----|
| | | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | | |
| 動物プランクトン | 生物量・出現種・ 分布状況 | 4定点 | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | 2 |
| 卵・稚仔 | 出現個体数・出現 種・分布状況 | 4定点 | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | 2 |
| 付着生物 | 出現種・被覆率・ 群落形成状況 | 5定点(2海域) | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | 2 |
| 漁業資源 | 漁獲量 | 新潟漁業協同組合 柏崎支所・出雲崎支所 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 12 |

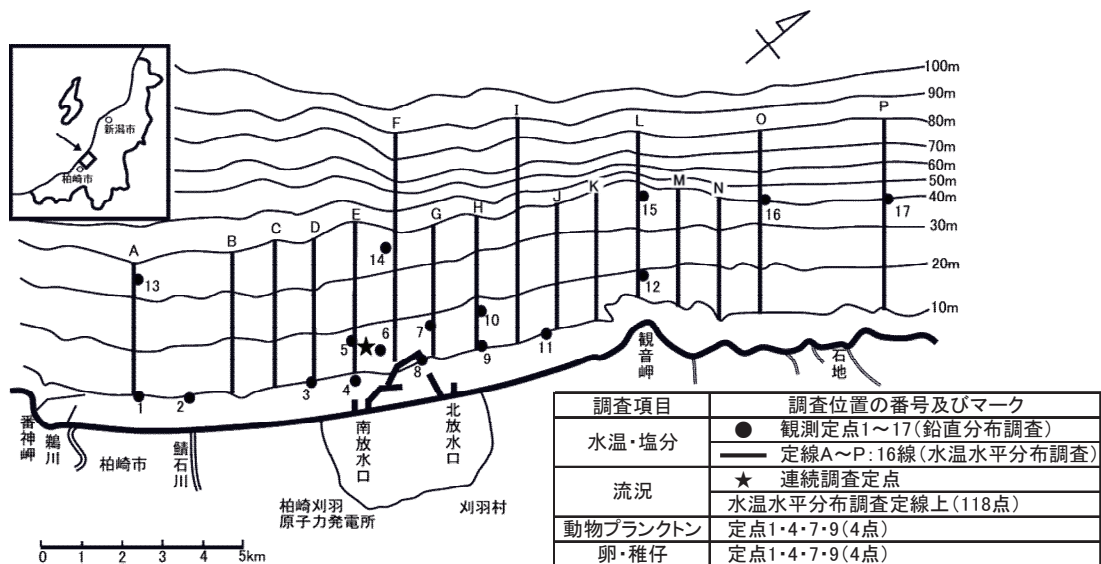


図1 調査定線および定点

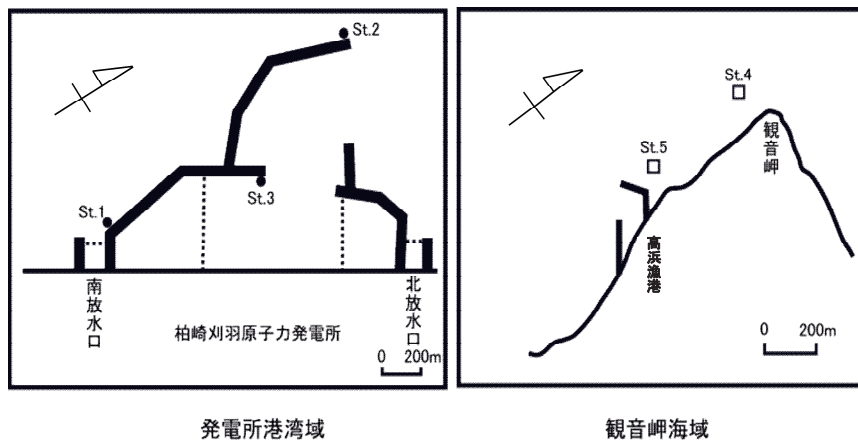


図2 付着生物調査定点

2 調査方法

(1) 水温・塩分調査

図1に示す16定線(定線A~P)において、多層曳航式水温計(JFEアドバンテック株式会社:A7CT-ADL)を用い、表層、2m、3m層の水温を連続測定する。また、17定点において水温塩分測定器(JFEアドバンテック株式会社:RINKO-ProfilerASTD102)を用い、表層、1、2、3、4、5、6、7、10、20、30m層の水温・塩分を測定して、両者の測定値から温排水分布状況を調査する。

(2) 流況調査

図1に示す1定点(★印)において、メモリー式電磁流速計(JFEアドバンテック株式会社:INFINITY-EM AEM-USB)を用い、水深5m層の流向、流速を2日間連続測定する。

多層曳航式水温計の観測時に、定線A~Pの水深15、20、25、30、35、40、50、60、70、80、90mの各地点において、ドップラー式流向流速計(古野電気株式会社:CI-68)を用い、水深5m層の流向、流速を測定して、流況を調査する。

(3) 動物プランクトン調査

図1に示す4定点において、北原式定量ネット（口径23.5 cm、網目幅0.1 mm）を用い、海底上2 mからの鉛直曳採集を行って、湿重量、出現種、出現個体数および分布等について調査する。

(4) 卵・稚仔調査

図1に示す4定点において、リングネット（口径80 cm、網目幅0.355 mm）を用い、曳網速度2ノットで10分間の表層水平曳き採集を行って、出現種、出現個体数および分布等について調査する。

(5) 付着生物調査

図2に示す発電所港湾域3定点、観音岬海域2定点において、スキューバ潜水による目視観察を行い、動植物の出現種、被覆率および群落形成の状況を調査する。

港湾域の定点においては海面上方1 mの飛沫帯を基点としてメジャーロープをコンクリートブロック沿いに海底まで垂下し、これに沿ってベルトトランセクト法により調査を行う。観察にあたっては基点より2 mまでは0.5 m × 1 m（鉛直方向×水平方向）の枠を、これ以降は1 m × 1 mの枠を設定し、この枠内に分布する動物および植物の地表面における投影面積（枠面積に対する百分率で表す。以下被覆率と呼ぶ。）と、他の生物に覆われている部分も含めた被覆率（動物が植物に覆われている場合など）を記録する。また、定点周辺の植生についても目視観察を行い、出現種等を記録する。観音岬の定点においては水深1~2 mに設置してある1 m × 1 mの固定枠2定点で、枠内に分布する植物の被覆率を目視観察する。

(6) 漁業資源調査

新潟漁業協同組合柏崎支所および出雲崎支所の令和8年1月~12月における漁獲量（水産海洋研究所調べ：属地、大中型まき網による漁獲を除く）をとりまとめる。